

やってみよう

画工作

家庭学習

なるほど！
それいいね！
…に出あえる時間

はじめに、イメージしてみてください。

食器を洗っていたら、手がすべってしまい
お気に入りの茶碗がわれてしまいました…。
お店に行ったら、どんな茶碗を買いますか。

お店についたら茶碗を手にとって、ちょうどいい大きさはどれかな、気持ちのよい手ざわりはどれかな、ご飯をおいしそうに盛ることができる形や色はどれかな…と自分の生活にピッタリなデザイン探しが始まると思います。

この時、体全体を使って働かせているのが「**造形的な見方・考え方**」というものです。それこそ図工や美術の時間に学んだ力であり日々の生活の中で私たちが身に付けた力です。

図画工作科の時間は、ただ絵を描く時間、工作をする時間というわけではなく、様々な表現や鑑賞の活動を通して、**つくりだす喜び**を味わう時間です。ホンモノそっくりな絵や立体作品をつくりだすことが目的ではありません。作品や活動をつくりだすということは**かけがえない自分**を見いだしたり、つくりだしたりすることなのです。

生活の中や自然の中にある形や色などの美しさやよさ、面白さに気付き、そこで感じたことや、好きな形や色などを自らの表現に取り入れてみる…図工の楽しさはそこにあります。

でも、図工の時間には、画用紙やいろいろな材料が必要で、家庭学習でやるには準備が難しいのでは…そんな思いもあるでしょう。

そこで今回は、横須賀市造形教育研究会で教科書と同じねらいで開発されている題材を中心に、できるだけ家庭学習で取り組みやすい題材を紹介いたします。そこで見られるお子さんの豊かな発想に対して「**なるほど！**」「**それいいね！**」と共感してみてください。

動き出せ! マイキャラクターズ

～多面的・多角的にとらえてみよう～

例えば、魚のイラストをかいてみようと言われたら、どんな絵をかきますか。水族館でも、魚屋さんでも、魚を見るときは大体、横向きなので横向きの絵がえがかれるのではないのでしょうか。では、その魚を「下から見たときの絵をかきましょう」とか「後ろから見た絵をかきましょう」と言われると、どうでしょう。なかなかイメージしにくい人が多いかもしれません。身近にあるものでも、または当たり前のことでも、「角度を変えて見る」ことは意識しないとできないことだと思います。

5・6年下の図工の家庭学習は、自分でオリジナルのマイキャラクターを考えて絵に表し、それを頭の中でぐるっといろいろな角度から見てみようという学習です。イメージするのはむずかしいですが、マイキャラクターはあなただけのものなので安心していろいろと試してみてください。そして、正面から、上から、横から、後ろから...とさまざまな角度から見たマイキャラクターを使って自分だけの世界を表現してみましょう。

なお、この家庭学習は、図画工作科家庭学習の5・6年上と組み合わせることで、さらに世界が広がるようになっています。

用意するもの (用意できたら、□に✓を書こう)

- えん筆・消しゴム
- 色えん筆 など
- ワークシート (試しの紙があると便利です)

1. まずは、○から考えよう。

- (1) 右のようなキャラクターを考えたとします。

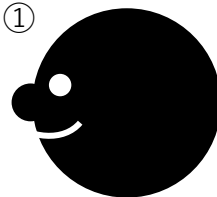


【質問】 このキャラクターを横から見たらどんな形だと思いますか。

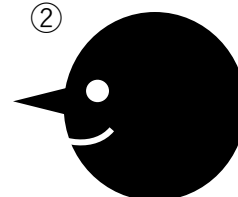


【あなたの考えと最も近いものはどれですか】

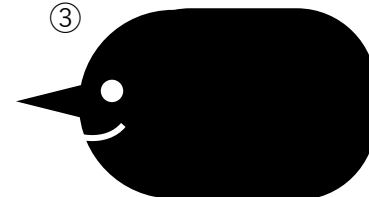
①



②



③



- (2) 上の①～③のどれにも当てはまらない人もいます。例えば、後ろには「しっぽ」があるかもしれませんし、電車のように顔の後ろに連結しているかもしれませんし...。そんな風に想像を広げてみてください。

- (3) 上のキャラクターは黒ですが、みなさんならどんな色にしますか。色やもようも自由に考えてみましょう。

2. マイキャラクターの世界を絵に表そう。

ワークシートを見てください。まずは、自分のオリジナルのマイキャラクターを考えます。そのキャラクターをいろいろな角度から見ると、どうなっているのか考えて、絵に表しましょう。そして、そのキャラクターたちが楽しくくらす世界を想像し、ワークシートのわく(青)の中にえがいてみましょう。

3. 作品の説明をしましょう。

ワークシートの下にある作品の紹介文には「がんばったこと」や「工夫したこと」ではなく、**どんな世界を表現したのか**を文章にしてください。スペースが足りない時は、はみ出してください。

動き出せ！ マイキャラクターズ

保護者用

～多面的・多角的にとらえてみよう～

高学年になると、図工の時間での取組が2極化してしまうことがあります。今日に至るまでの何らかの積み重ねによって、図工への苦手意識が芽生えてしまって、図工の時間に表現することをためらってしまう姿も時折見られます。これはとても残念なことです。その1つの要因として、大人の価値観から子どもの表現を見ることで、その表現が否定されてしまう...ということがあります。図画工作科や美術科が目指しているのは、有名な画家や彫刻家、デザイナーを生み出すことではなく、生活や文化、自然の中にある造形的なよさや美しさ、面白さを感じ取り、それを自らの生活に取り入れることができるようになること、つまり子どもたち一人一人の人生が豊かになることです。

この家庭学習は、6年生をイメージしたもので、なお且つ、本来であれば授業中に行われるような対話的なやり取りが行われないため、難易度は高いです。そのため、思い通りに表現できないこともあるかもしれませんが、この題材に向かっている姿を肯定的に受け止め、励ましていただきたいと思います。

なお、この家庭学習は、図画工作科家庭学習の5・6年上と組み合わせることで、さらに世界が広がるようになっています。

1. まずは、〇から考えよう。



はじめに、左のような単純な絵を見て、これを横から見たらどうなっているのか、お子さんに考えてもらいます。今回は紙面上に、①～③のような例を提示しました。②は「鼻が円錐形だった」③はそれに加えて「全体が円柱形で球体ではなかった」という予想をしたものです。

続けて、(2)として、さらに発想が広がるように「後ろには「しっぽ」があるかもしれない」ということや「顔の後ろになにか続いているかもしれない」というようなイメージを紹介しています。

(3)では、色について触れています。例えば、このキャラクターに光を当ててみると、黒ではない色や模様が見えてくるかもしれません。お子さんと話をしながら、自由に「どんな色なのか」「どんな模様があるのか」を考えていただきたいと思います。

2. マイキャラクターの世界を絵に表そう。

上の1の練習を参考にして、今度はオリジナルのマイキャラクターを考えます。自分のかいた絵を多方向からイメージしてかくという経験はあまりないと思います。実際に、これまでの6年生も頭を抱えながら取り組んでいる子が多かったです。そのため、はじめからスムーズに出来なくても心配しないでください(大人でも難しいかもしれません)。新しいことに挑戦し、悩んでいる時間も、自らを成長させるかけがえのない時間です。正面から見えない角度から見たときに(想像したときに)思いがけない発見があったり、良い思い付きが生まれたりするかもしれません。

3. 作品の説明をしましょう。

5・6年上でも記しましたが、大切なことは絵の上手い下手ではなく、お子さんがこの活動で何を考え、どう取り組んだか...です。そのことについて「なるほど!」「それいいね!」などと共感しお子さんの取組姿勢を称えていただければと思います。

用意するもの (お子さんが用意できたかご確認をお願いします)

- 鉛筆・消しゴム
- 色鉛筆 など
- ワークシート (試しの紙があると便利です)

1. オリジナルのマイキャラクターを考えよう。

オリジナルキャラクターのアイデアスケッチ
正面から見たとき、横から見たとき、上から見たとき…どんな感じかな。

このスペースでは足りない時は、他の紙にアイデアスケッチをしよう。

3. いろいろな角度のマイキャラクターたちが楽しくくらす世界を右の□にえがこう。

※ 図画工作科家庭学習5・6年上で学習した「おくゆき」なども意識すると世界が広がります。

4. 作品の題名と自分の名前を書きましょう。

題名： 名前：

5. 今回、あなたが考えた「キャラクターたち」のことや「イメージした世界」についての紹介文を右の□に書きしょう。このわくの中に入りきれない時は、続きを裏などに書いてください。

新しいことを思い付いたら、自由帳などにメモしたり、絵にしてみてくださいね。